

会社の現況

1. 事業概況

令和7年度の我が国は、為替相場が円安で推移し、原材料費やエネルギー価格の高止まりなどにより不安定な経済状況が続く中、アメリカとイスラエルによるイランへの軍事攻撃が勃発し原油価格が高騰、今後さらなる物価の上昇が懸念されるなど、経済の先行きが不透明な状況となりました。

そのような中、冷蔵倉庫は国民生活や経済活動を支える必要不可欠な存在として、安定した保管機能を維持することが求められております。当社は川崎北部市場の冷蔵・冷凍保管機能を担い市場で取引される食料品の流通を支え、市民の皆様へ食の安全・安心を確実に提供できるよう努めてまいりました。

当社といたしましては、厳しい経営環境の状況下にあっても、収入面においては市場内事業者及び市場外事業者への営業活動をすることで売上の維持、向上を図るとともに、利用者の皆様にご理解をいただきながら保管料の見直しを実施し、支出面においては動力費ほか経費の抑制に努めるなど、経常利益の確保を図ってまいりました。

結果、今期の売上は保管料と凍氷販売を合わせた売上総額は 380,396 千円（前期比 103.4%）となり 12,576 千円の増収となりました。

一方、支出につきましては支出総額で、356,927 千円（前期比 99.2%）となり、2,874 千円の減少となりました。

その結果、今期の営業利益は 23,469 千円（前期比 292.7%）、経常利益は 26,551 千円（前期比 246.1%）、当期純利益は 26,371 千円（前期比 248.5%）となりました。

（1）冷蔵保管部門

容積建保管の売上は 221,256 千円で前期比 108.2%となりました。
一般保管に関しては冷凍品・冷蔵品を合わせた売上高が 145,227 千円で前期比 97.9%となりました。

（2）凍氷部門

販売数量は 626 屯（前期比 90.4%）で売上高 13,913 千円（前期比 92.6%）となりました。

（3）両部門合計

売上高合計は、380,396 千円（前期比 103.4%）となり、12,576 千円の増収となりました。

2. 冷蔵設備状況及び製氷日産能力

冷蔵庫	新1号棟	1,060 屯	
	2号棟	4,350 屯	(内超低温 1,294.6 屯)
	3号棟	10,674 屯	(内超低温 268.0 屯)
	合 計	16,084 屯	(内超低温 1,562.6 屯)

凍氷 製氷日産能力 1日当たり 20 屯

3. 財産及び損益の推移

今期末における総資産は 349,164 千円で前期末に比べ 25,032 千円増加しました。また、純資産については 113,589 千円で前期末に比べて 26,371 千円増加しました。

損益状況では、当期純利益は 26,371 千円となり、その結果、繰越損失は前期よりも 26,371 千円減少し 86,411 千円となりました。

4. 課題

当面の課題として、老朽化が進む施設・設備の保守管理、修繕等による冷蔵冷凍機能の保全、品質維持を前提とした可能な範囲内での動力費の抑制、人材の確保・育成に向けた取り組みの継続、収支の改善などと考えています。

また、中長期的な課題として、川崎市中央卸売市場北部市場機能更新に係る基本計画に基づき実施される施設の機能更新等について、開設者や市場内事業者と連携して取り組むこと、などとなります。

5. 事業計画

川崎北部市場の市場内事業者等に冷蔵・冷凍保管機能等のサービス提供や凍氷の製造販売を行うことは当社において今後とも大変重要な事業であり、関係取引先の商品を適切な管理のもとでお預かりし、安定した経営を確保するよう努めてまいります。

また、施設・設備の保守管理を適切に実施し、北部市場の機能更新に向けた対応を開設者と協議を進めるとともに、場内事業者の経営状況やニーズの把握に努めるなど会社の課題を意識した運営を行い、将来にわたって持続した経営を実現できるよう取り組んでまいります。